

失われた立ちどまるムダ

利 島 保

いつの連休だったか上野動物園のパンダの檻の風景がテレビのニュースに流れたのを目にしたことがある。あいかわらずの人だかりだが、その中から流れてくるダメ声に私は苦笑した、それは係員の観客整理の声である。

「歩きながらパンダをみてください、立ちどまらないでください。そのカメラを写している人歩きながらうつして下さいよ」なんと気ぜわしい上に、どさくさまぎれのひどい注文であろうか、多分カメラにはブレたパンダが写ったことであろう。そんな思いで二、三十秒のニュースを見ながら、同じ光景が、ミロのヴィーナス展やモナリザ展でもあったし、五年前の万博で、私もいやというほどぞろぞろ歩かされながら観覧者になった記憶がある。

こんな光景をみたり体験した時思うことは、どんな立

派な芸術品だろうと、どんなにかわいい珍獣だろうと、多少立ちどまって、それらに接した感動を少しの間でもその場で味わうことがなかったら、何の意味もない群衆行動の中に自分を投じたむなしさと疲れだけが残るのはなからうか。

どうもこのごろは、世の中自体がそのような立ちどまりの機会を与えてくれなくなってはいないだろうか。そのため人々が互いに無関心になってしまった。変な話だが、たとえ白昼、人通りの多い中で殺人事件があっても、そしらぬ顔で自分とかかわりあいのないことは立ちどまりもしなくなっただろうか。エコノミックアニマルといわれ、東南アジアで最もきらわれたわれわれ日本人は、結局自分たちの目的だけで行動し、立ちどまりのムダをばぶいたことが、日本人不信を世界にふ

りまいたのではないだろうか。どうも、私のがらにもな
く大きなことを言ってしまったが、確かに、今の時代、
何か自分の周囲をみまわす余裕を失なわせる環境になっ
てしまっていることはいなめない事実と思う。

心にゆとりがあるということは、立ちどまることのム
ダをムダと感じさせないのだろうし、立ちどまることの
意味は、本人が意識していようといまいと、自分をふり
かえる機会を与えてくれると思う。そんなことを思いつ
つ、幼児を育てることの世界をのぞくと、ここにも、せ
き立てムードが何か感じられてならない。それはあまり
に、先生たちが情報過多気味なために、自分のやってい
ることに自信がもてず、なにかにすがろうと求めている
こと、失敗することのムダを恐れ、結局なにもしないま
まで終わっているように感じられてならない。一般的な
風潮として、なにか一定の達成規準や目標を設定して、
それに向かってなになんでも頑張ろうという流儀があ
るようだ。特に、教育界とはそんなことでもしないと、
金のムダ使いくらいにしかほかの人たちからは見られな
いという、ひがみがあるのかもしれない。

しかし、もう猛烈時代は去ってしまったのに、世

の中は、まだ立ちどまりもせず、あくせくと前方ばかり
志向している。人間の習慣も一度加速度がついたら、少
少のことではブレーキもきかないとみえる。だからこ
そ、幼児を育てること、育てることに従事する人から、
ブレーキをかけて、われに返ること、自分を見つめるこ
とを再開しなければならぬ。それに子どもと遊ぶこと
のムダは、教師という人の最高のムダであり、自分をふ
り返るムダであろう。外の情報や雑音にふりまわされる
ことなく立ちどまり、そして、ムダをむさぼることは人
生にとっても最高のことだろう。

しかし、そんな老子的思潮は、現代はなれしてい
し、世の中そんなに甘いものでもない。だから、私はせ
めて交通ゼネストの時くらい、自分の本業をサポート、
子どもと遊ぶムダをもとうとそれを実行したが、結局、
本業の仕事がたまってしまふことを恐れ、それを気にし
ながら、仮の立ちどまりのムダの味を、ほろ苦いと思
い、つつも味わってしまった。

(広島大学)